

## はじめに

子供たちは、社会の宝であり、将来への希望に満ち、心身ともに健やかに成長することは、すべての県民の願いです。

一方、近年、子供たちを取り巻く環境は大きく変化しています。核家族化や地域社会の連帯感の希薄化により、多くの大人に見守られながら育つという機会が減少しており、コミュニケーション力や自己肯定感の低下など、子供たちの様々な課題が指摘されています。

県教育委員会では、これまで学校・家庭・地域が協働して、地域全体の教育力を高めるとともに、子供も大人も共に育ち、育て合う関係づくりの基盤となる「きのくに共有コミュニティ」を推進してまいりました。「放課後子ども教室」や「土曜日等子ども教室」等の取組により、学校と地域がつながりを深めながら、地域全体で子供の育ちを支援するという風土が培われてきたと考えています。

さらに、昨年度からは、「子どもの居場所づくり」として、地域の人々の協力を得て、学習支援や交流活動を行い、子供の放課後等の安全・安心な居場所を確保する取組を推進しています。地域の人々に見守られながら、一人一人の学びを支えていただくことで、子供自身が学ぼうとする意欲や学習習慣の定着、コミュニケーション力や自己肯定感の向上につながることを目的としています。

本事例集では、地域の指導員による独自のプリントを活用した学習支援や習字、絵本の読み聞かせ、英会話の指導を行っている市町村等、各地域の実情に合わせた様々な事例を掲載しています。「子どもの居場所づくり」に関係する大人の思いや子供の成長を共有していただくとともに、今後、県内各地域においてこれらの事例が新たな学びや活動のヒントとなり、「子どもの居場所づくり」の取組が充実し、益々推進されていくことを心から願っています。

結びに、本事例集の発刊に当たり、御協力いただきました関係各位に対して、厚く御礼申し上げます。

和歌山県教育委員会

教育長 宮 下 和 己



